

# RYUSHI vol. 4 「古代オリエント②エジプト統一国家」

Cf.) 読本 pp. 20-21

タペストリー pp.54-57

## 1. エジプトの統一国家

### ○古代エジプト

- ・(1) **ナイル川** : 定期的氾濫 (7-10月) により上流から肥沃な土 (ナイル=シルト) 運搬  
→(2) 「**エジプトはナイルのたまもの**」 (3) **ヘロドトス** (4) 『**歴史**』  
……沃土に播種で農業繁栄
  - ▲上エジプト (エジプト南部・ナイル川中流の渓谷地帯) : 22 のノモス
  - ▲下エジプト (エジプト北部・ナイル川河口付近のデルタ地帯) : 20 のノモス
- (5) **ナイロメーター** (水位計) : ナイル川の水位記録
- ・(6) **ノモス** [Nomos] (県) : 部族の村落から政治的単位として成立=部族国家
  - ▲(7) **灌漑農業** : 住民を統率する指導者が必要→統一への動き
- ・エジプト統一国家 : 王による(8) **神権政治**
  - ▲マネト『エジプト史』(前3c) : 古代エジプト=7期30王朝の区分
  - ▲比較的安定した国内統一 : 砂漠、海、ナイル川に囲まれた閉鎖的地形
    - △王=(9) **ファラオ** [Pharaoh] (「大きな家」の意) による神権政治 : 超越的権威(生ける神)
    - △中央集権的官僚体制 : 世襲の官僚・神官団による安定した政治
    - △住民の大部分は不自由農民 (セメデト) : 租税、無償労働を課される

○(10) **初期王朝**時代 (第1~第2王朝) : (11) **メネス王**による上下エジプト統一 (前3000年頃)

○(12) **古王国**時代 (第3~第6王朝; 前27~前22c) : 都=(13) **メンフィス** (ナイル川下流域)

- ・(14) **太陽神ラー**信仰 : 頭上に日輪、ハヤブサの顔 ; ファラオ=ラーの子
- ・(15) **ピラミッド** (王墓) : 王の絶対的権威を示す ; 農閑期の農民のための国家事業?
  - ▲(16) **ギザの三大ピラミッド** : クフ王、カフラー王、メンカウラー王のピラミッド  
……(17) **クフ王**のものが最大
  - ▲(18) **スフィンクス** : 人頭獣身の石像 ; 聖域の守護
- ・(19) **第1中間期** (第7~第10王朝) : 第6王朝ののち各地のノモスが独立

○(20) **中王国**時代 (第11~第12王朝; 前21~前17c) : 都=(21) **テーベ** (上エジプト)

- ・都市神(22) **アメン** [アモン ; Ammon] : テーベの勢力増大に伴い強大化
- ・(23) **第2中間期** (第13~第17王朝) : (24) **ヒクソスの**侵入で分裂
  - ▲ヒクソス [Hyksos] : セム系遊牧民 ; 西アジアから(25) **馬、戦車**をもちこむ  
→第15王朝を建てる

○(26) **新王国**時代 (第18～第20王朝；前16～11c)：都＝テーベ

- ・ (27) **トトメス3世** (第18王朝)：海外遠征による最大領土実現 (東＝シリア、南＝ヌビア)
  - ▲(28) **アメン＝ラー**信仰：海外遠征成功でアメン信仰強大化→ラーと同一視
  - (29) **テーベ神官団**政治介入
- ・ (30) **アメンホテプ4世** (第18王朝)：「(31) **イクナートン** (アトン神に有益なるもの)」
  - ▲(32) **アマルナ改革**：テーベ神官団の勢力排除を狙う
    - △(33) **唯一神アトン**[アテン；Aton]信仰の強制
    - △(34) **テル＝エル＝アマルナ**[アクトアテン]への遷都：アメン神の都テーベを離れる
    - (35) **アマルナ美術**：新しい信仰から自由で写実的な芸術が生まれる
    - Ex.) (36) **ネフェルティティ** (=アメンホテプ4世の妃)の胸像
  - ※アメンホテプ4世の死により改革は頓挫
- ・ (37) **ツタンカーメン王**[トゥト＝アंक＝アメン；Tutankhamen]：アメン信仰の復活  
メンフィス遷都
- ・ (38) **ラムセス2世** (第19王朝)：長期間の在位、王国勢力の復活
  - ▲(39) **カデシュの戦い** (前1286年)：シリアを巡り(40) **ヒッタイト**と争う  
→世界最古の平和条約
  - ▲(41) **アブ＝シンベル神殿**：ラムセス2世の巨像4体；カデシュの戦いの様子など
- ・ ラムセス3世 (第20王朝)：(42) **「海の民」**を撃退；その後衰退
- ・ (43) **第3中間期** (第21～第24王朝)：異民族リビア人の支配

○(44) **末期王朝**時代 (第25～第30王朝；前11～前4c)：王権弱体化

- ・ (45) **クシュ王国** (ナイル川上流)：ヌビア人が独立して建国、エジプト支配 (第25王朝)  
→アッシリアの圧迫受けエジプトより撤退、メロエに遷都 ((46) **メロエ王国**)
- ・ (47) **アッシリア** (前7c)、(48) **アケメネス朝**(前525年)による支配
- ・ (49) **アレクサンドロス大王**の東方遠征 (前4c) により征服：(50) **プトレマイオス朝**へ

○エジプトの文化

- ・ ナイル川の氾濫を有効活用する技術の発達
  - ▲(51) **太陽暦**：シリウスの動きをもとに1年＝365日で設定 (ローマのユリウス暦へ)
  - ▲(52) **測地術**：のちの「ピタゴラスの定理」となる知識等が知られる (ギリシア幾何学へ)
- ・ (53) **来世信仰**：靈魂の不滅、死後の世界を信じる
  - ▲(54) **ミイラ**：死体の加工して保存
  - ▲(55) **「死者の書」**：生前の善行、復活のための呪文記す；ミイラと共に埋葬
- ・ エジプト文字：絵文字から発達
  - ▲(56) **神聖文字**[ヒエログリフ；Hieroglyph]：象形文字；碑文・墓室等
    - ※(57) **ロゼッタ＝ストーン**から(58) **シャンポリオン** (仏) が解読
  - ▲(59) **神官文字**[ヒエラティック；Hieratic]：神聖文字を簡略化；公文書等；パピルス使用
  - ▲(60) **民用文字**[デモティック；Demotic]：最も簡略化；日常生活；(61) **パピルス**使用

# RYUSHI vol. 4 「古代オリエント②エジプト統一国家」

Cf.) 読本 pp. 20-21

タペストリー pp.54-57

## 1. エジプトの統一国家

### ○古代エジプト

- ・ (1) \_\_\_\_\_ : 定期的氾濫 (7-10月) により上流から肥沃な土 (ナイル=シルト) 運搬  
→(2) \_\_\_\_\_ ((3) \_\_\_\_\_ (4) 『歴史』)  
……沃土に播種で農業繁栄
  - ▲上エジプト (エジプト南部・ナイル川中流の溪谷地帯) : 22 のノモス
  - ▲下エジプト (エジプト北部・ナイル川河口付近のデルタ地帯) : 20 のノモス
- (5) **ナイロメーター** (水位計) : ナイル川の水位記録
- ・ (6) **ノモス** [Nomos] (県) : 部族の村落から政治的単位として成立=部族国家
  - ▲(7) **灌漑農業** : 住民を統率する指導者が必要→統一への動き
- ・ エジプト統一国家 : 王による(8) \_\_\_\_\_
  - ▲マネト『エジプト史』(前 3c) : 古代エジプト=7期 30王朝の区分
  - ▲比較的安定した国内統一 : 砂漠、海、ナイル川に囲まれた閉鎖的地形
    - △王=(9) \_\_\_\_\_ [Pharaoh] (「大きな家」の意) による神権政治 : 超越的権威 (生ける神)
    - △中央集権的官僚体制 : 世襲の官僚・神官団による安定した政治
    - △住民の大部分は不自由農民 (セメデト) : 租税、無償労働を課される

○(10) **初期王朝**時代 (第1~第2王朝) : (11) **メネス王**による上下エジプト統一 (前3000年頃)

○(12) \_\_\_\_\_時代 (第3~第6王朝; 前27~前22c) : 都=(13) \_\_\_\_\_ (ナイル川下流域)

- ・ (14) \_\_\_\_\_ 信仰 : 頭上に日輪、ハヤブサの顔 ; ファラオ=ラーの子
- ・ (15) \_\_\_\_\_ (王墓) : 王の絶対的権威を示す ; 農閑期の農民のための国家事業?
  - ▲(16) **ギザの三大ピラミッド** : クフ王、カフラー王、メンカウラー王のピラミッド  
……(17) \_\_\_\_\_ のものが最大
  - ▲(18) **スフィンクス** : 人頭獣身の石像 ; 聖域の守護
- ・ (19) **第1中間期** (第7~第10王朝) : 第6王朝ののち各地のノモスが独立

○(20) \_\_\_\_\_時代 (第11~第12王朝; 前21~前17c) : 都=(21) \_\_\_\_\_ (上エジプト)

- ・ 都市神(22) \_\_\_\_\_ [アモン ; Ammon] : テーベの勢力増大に伴い強大化
- ・ (23) **第2中間期** (第13~第17王朝) : (24) \_\_\_\_\_ の侵入で分裂
  - ▲ヒクソス [Hyksos] : セム系遊牧民 ; 西アジアから(25) **馬、戦車**をもちこむ  
→第15王朝を建てる

○(26) \_\_\_\_\_時代 (第18～第20王朝；前16～11c)：都＝テーベ

- ・(27) **トトメス3世** (第18王朝)：海外遠征による最大領土実現 (東＝シリア、南＝ヌビア)

▲(28) \_\_\_\_\_信仰：海外遠征成功でアメン信仰強化→ラーと同一視

(29) \_\_\_\_\_ 政治介入

- ・(30) \_\_\_\_\_ (第18王朝)：「(31) \_\_\_\_\_ (アトン神に有益なるもの)」

▲(32) **アマルナ改革**：テーベ神官団の勢力排除を狙う

△(33) **唯一神** \_\_\_\_\_ [アテン；Aton]信仰の強制

△(34) \_\_\_\_\_ [アクトアテン]への遷都：アメン神の都テーベを離れる

→(35) \_\_\_\_\_：新しい信仰から自由で写実的な芸術が生まれる

Ex.) (36) **ネフェルティティ** (=アメンホテプ4世の妃)の胸像

※アメンホテプ4世の死により改革は頓挫

- ・(37) **ツタンカーメン王** [トゥト＝アंक＝アメン；Tutankhamen]：アメン信仰の復活  
メンフィス遷都

- ・(38) **ラムセス2世** (第19王朝)：長期間の在位、王国勢力の復活

▲(39) **カデシュの戦い** (前1286年)：シリアを巡り(40) **ヒッタイト**と争う

→世界最古の平和条約

▲(41) **アブ＝シンベル神殿**：ラムセス2世の巨像4体；カデシュの戦いの様子など

- ・ラムセス3世 (第20王朝)：(42) **「海の民」**を撃退；その後衰退

- ・(43) **第3中間期** (第21～第24王朝)：異民族リビア人の支配

○(44) **末期王朝**時代 (第25～第30王朝；前11～前4c)：王権弱体化

- ・(45) **クシュ王国** (ナイル川上流)：ヌビア人が独立して建国、エジプト支配 (第25王朝)

→アッシリアの圧迫受けエジプトより撤退、メロエに遷都 ((46) **メロエ王国**)

- ・(47) **アッシリア** (前7c)、(48) **アケメネス朝** (前525年)による支配

- ・(49) **アレクサンドロス大王**の東方遠征 (前4c)により征服：(50) **プトレマイオス朝**へ

○エジプトの文化

- ・ナイル川の氾濫を有効活用する技術の発達

▲(51) \_\_\_\_\_：シリウスの動きをもとに 1年＝365日で設定 (ローマのユリウス暦へ)

▲(52) \_\_\_\_\_：のちの「ピタゴラスの定理」となる知識等が知られる (ギリシア幾何学へ)

- ・(53) **来世信仰**：靈魂の不滅、死後の世界を信じる

▲(54) \_\_\_\_\_：死体の加工して保存

▲(55) \_\_\_\_\_：生前の善行、復活のための呪文記す；ミイラと共に埋葬

- ・エジプト文字：絵文字から発達

▲(56) \_\_\_\_\_ **文字** [ヒエログリフ；Hieroglyph]：象形文字；碑文・墓室等

※(57) \_\_\_\_\_から(58) \_\_\_\_\_ (仏)が解読

▲(59) **神官文字** [ヒエラティック；Hieratic]：神聖文字を簡略化；公文書等；パピルス使用

▲(60) \_\_\_\_\_ **文字** [デモティック；Demotic]：最も簡略化；日常生活；(61) \_\_\_\_\_使用